

精製KITのBDX-terminator使用は、共同実験室までご相談下さい。

## コンピュータ起動

- ・コンピュータ電源ON
- ・User Name:administrator、Password:なし

## 3130 x1本体起動

- ・電源投入 (ステータスランプが黄色点滅から緑色点灯へ)
- ・3130 Data Collectionソフトを起動四角のマークが全て緑になるまで待つ (約2分)

## Buffer、蒸留水の交換

1XBuffer 約 32mL必要

- ・フレッシュなものと交換 <利用用紙を参考にして点検>
- 1) T R A Y ボタンを押し、ステージを前に出す。(停止するまで扉を開けない事)
- 2) Buffer Tray、陽極側Bufferを交換する。
- 3) 扉を閉める(後は自動でセットされます。)

## サンプルの準備 <利用用紙を参考にして点検>

- ・サンプルをHi-Di Formamideに溶かし、プレートにセット
- ・Plate assemblyを組み立て、3130本体へ設置
- ・Plate Managerを作成、Run Schedulerで、Plateのリンク

3130 Plate Managerの作成

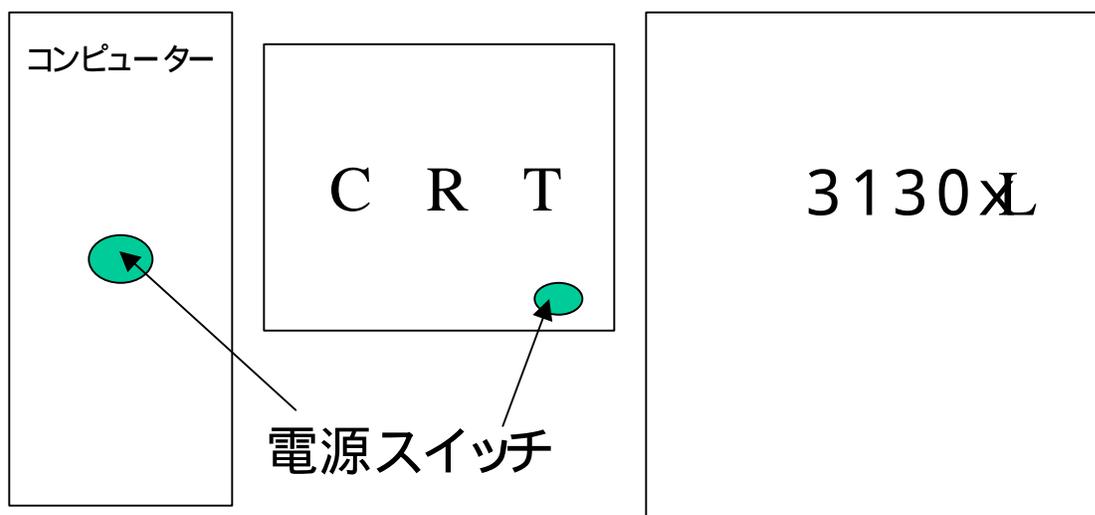
- 1) Plate Manager を選択 New (左下) をクリックし、  
NAME : 日付・名前 (070501iwaiwa)  
注意 / : ; \* ? “ < > | [] ” スペースなどは、使用できません  
Application Sequencing Analysis  
Owner Name 実験グループ名  
Operator Name 研究者名 、OKを押す。
- 2) Sequencing Analysis Plate Editorが表示されますので、サンプルウェルに入力する。  
注意 / : ; \* ? “ < > | [] ” スペースなどは、使用できません
- 3) その他の入力は、

KIT名	Results Group	Instrument Protocol	Analysys Protocol
Big_DyeV1.1	Seq_Results_Group	FastSeq50_POP7_BDv1.1	3130KB_POP7_BDv1.1
Big_DyeV3.1	Seq_Results_Group	FastSeq50_POP7_BDv3.1	3130KB_POP7_BDv3.1

- 4) すべて入力できればOK (右下) を押ししてください。
- 5) Run Schedulerを選択しplate名を選び、右の黄色plateを押す。(黄色から緑色に変身)。
- 6) Run Viewで、サンプル位置を確認  
サンプルIDを記入しておく

## RUNスタート

## コンピュータ起動

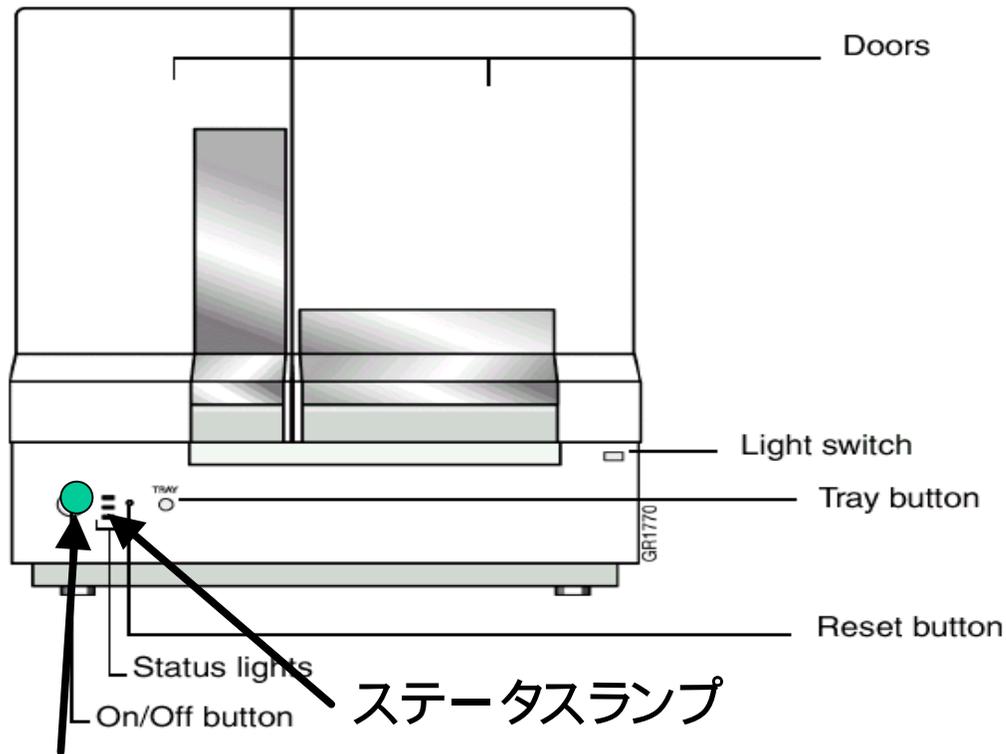


1. コンピューターの電源を押す。
2. モニターの電源を押す。



3. OKを押す。

デスクトップ画面が表示されるまで待つ



電源スイッチ

1. 3130の電源を押す。
2. ステータスランプが、緑になるまで待つ

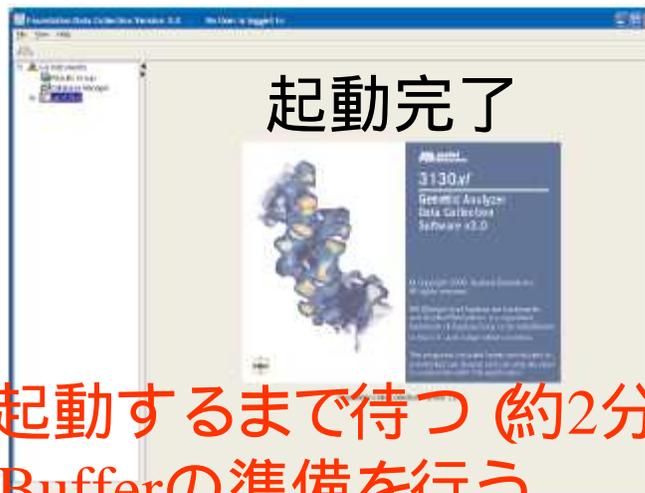
赤ランプ時は使用できません



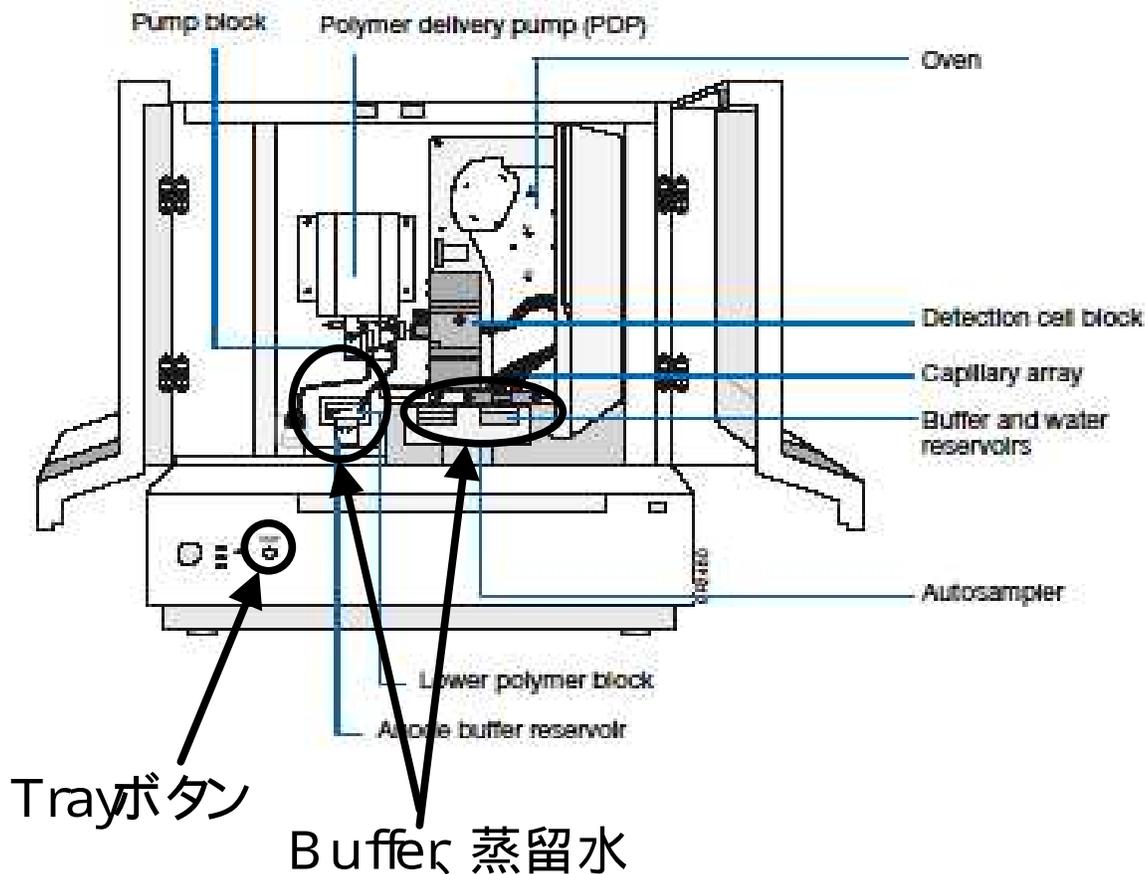
### 3. 3130xl Data Collection をダブルクリック



起動中



Softが起動するまで待つ (約2分)  
Bufferの準備を行う

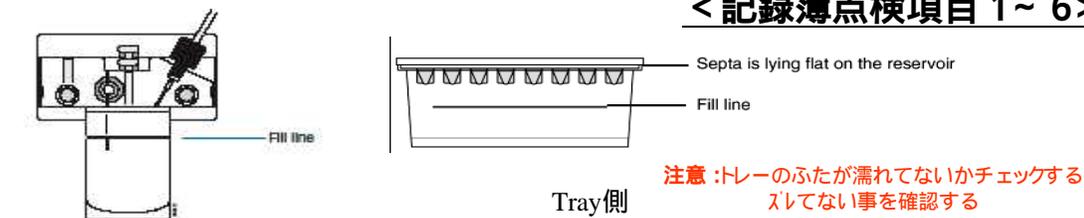


1. Trayボタンを押し、ステージを前に出す。

(停止するまで扉を開けない)

2. 扉を開け Bufferと蒸留水を交換する。

< 記録簿点検項目 1~ 6 >



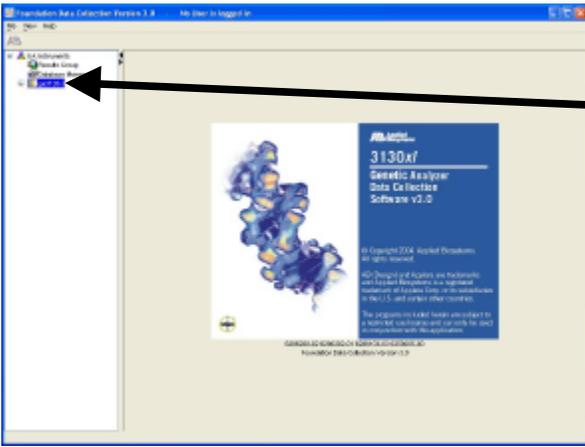
陽極側  
16m L (1x Buffer)

16m L (1x Buffer)

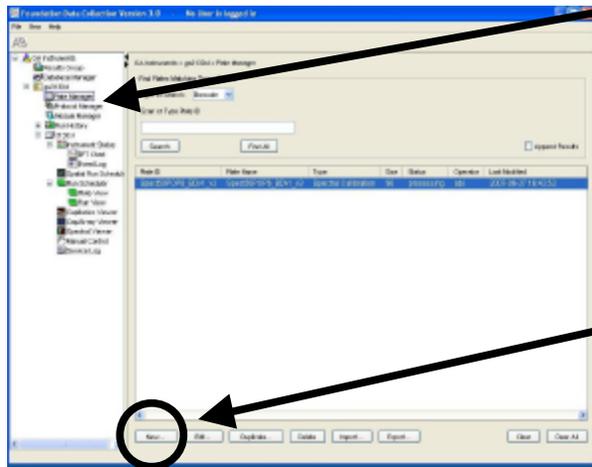


3. 交換後、ドアを閉める。

(トレイが自動で戻り、緑ランプが点灯)



1.ga3130x1横の+をクリック



2.Plate Managerを選択

3.Newをクリック

サンプルシート作成



4.日付、名前を入力

例、2007年7月 1日は、070701isomoto

注意 / ; \* ? "<> | | " 'スペースなどは、使用できません

SequencingAnalysisを選択

実験グループ名

研究者名

上の事項入力後、間違いなければ OKを押す。

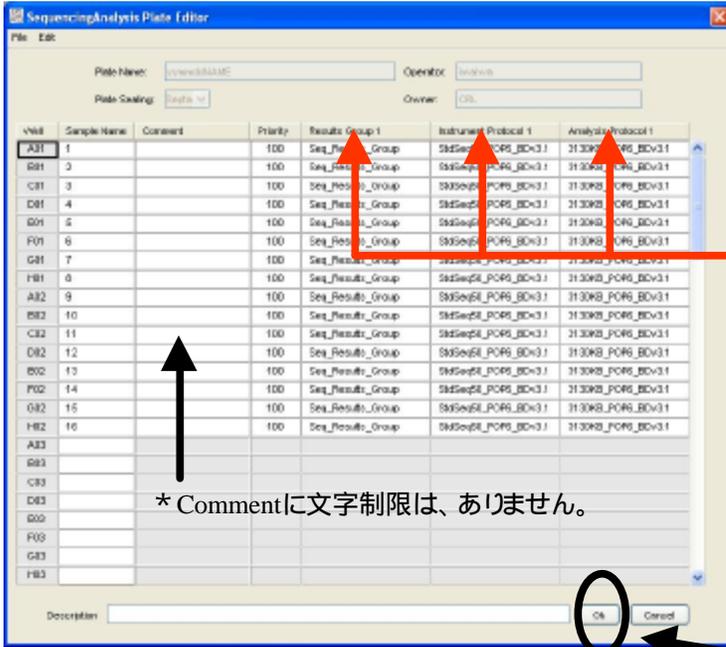
# 5 .Sample Nameを入力する。

(wellを間違えないよう)

注意 / ; \* ? < > | [] 'スペースなどは、使用できません

KIT名	Results Group	Instrument Protocol	Analysis Protocol
Big DyeV1.1	Seq_Results_Group	FastSeq50_POP7_BDv1.1	3130KB_POP7_BDv1.1
Big DyeV3.1	Seq_Results_Group	FastSeq50_POP7_BDv3.1	3130KB_POP7_BDv3.1

16サンプル内でのKIT混在は、2Runになります



\*個々の最上段項目をクリックし  
EDIT---Fill Downすると、最上段サンプルと同様の  
設定になります。

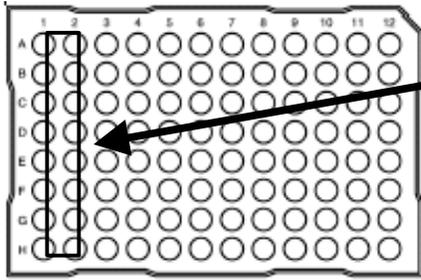
A1にサンプルがない場合はコピーしたい場所を  
マウスドラッグで反転させてFill Downして下さい。

上の事項入力後、間違いなければ  
OKを押す

Commentは、未記入でもOK

Sample Name  
Results Group 1  
Instrument Protocol 1  
Analysis Protocol 1

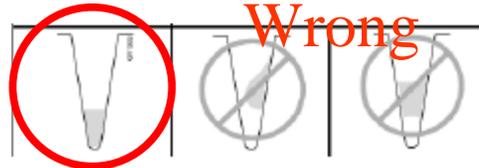
すべての項目を入れる



1. 16本が、1setになります。  
サンプルがないところも、HiDiを入れる

HiDi:HiDi Formamide at 15uL

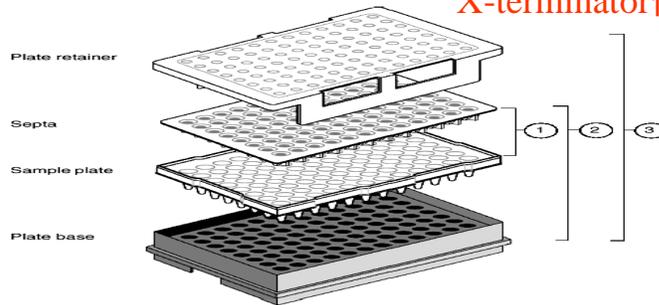
<記録簿点検項目 7>



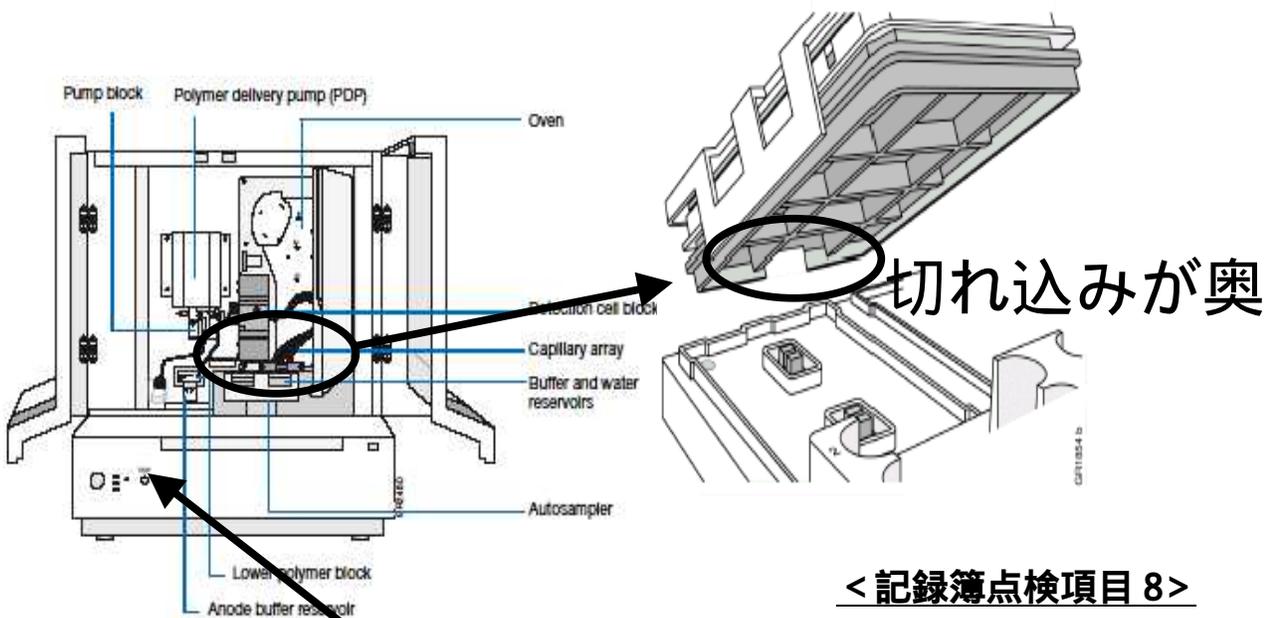
サンプルは気泡が入らないよう 必ず、上のよう

## 2. サンプルホルダーにセットする。

X-terminator使用時リネーチャー禁止

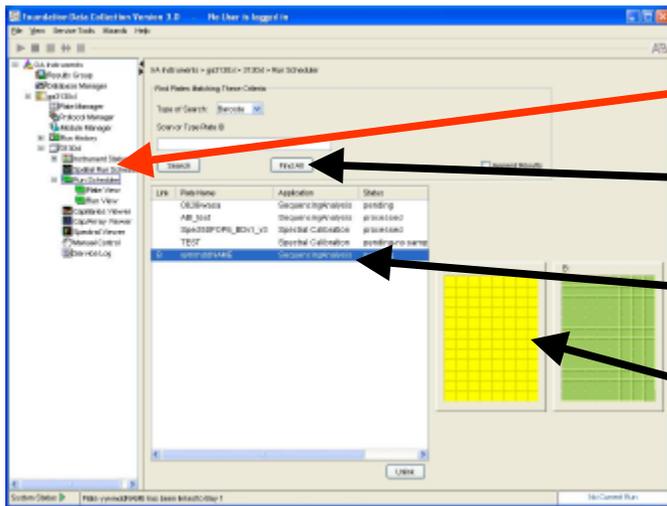


サンプル準備



<記録簿点検項目 8>

3. Trayボタンを押し、サンプルホルダーをセットする。  
扉を閉める。(後は自動で動きます。)



3130XL横の+をクリック

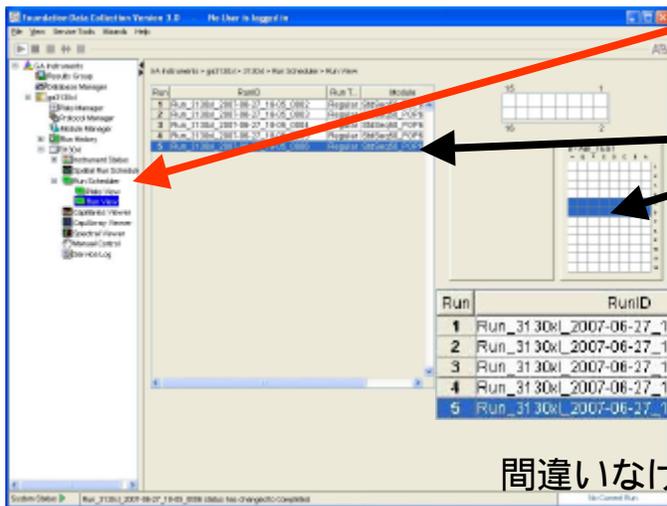
# 1. Run Schedulerを選択

1-1. Find Allを押す

1-2. 自分の作成したPlate名を選び

1-3. 対応したPlateの絵をクリック

黄色～緑に変身

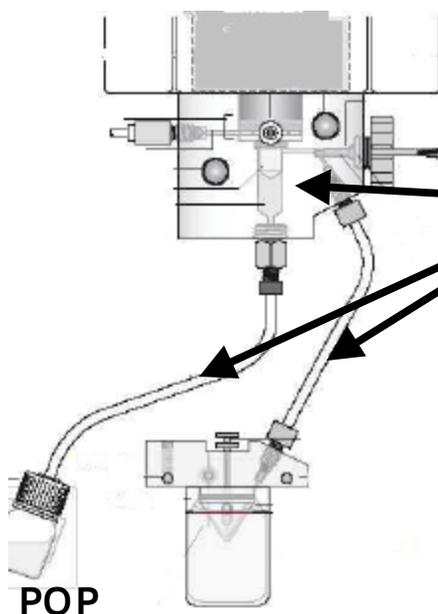


# 2. Run Viewを選択

Run IDをクリックすると、サンプル位置が右の表に表示されます。

間違いなければ、RunID末尾の数字を記録簿に記入

**利用記録の点検項目をすべてチェックしてください。**



LINEに気泡がないことを確認

<記録簿点検項目9>

POPが少ない場合・気泡がある場合、共同実験室まで

R  
U  
N

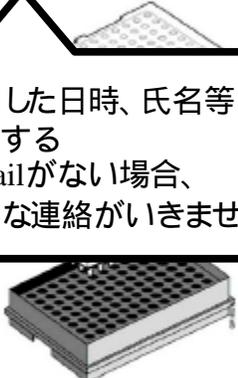
記録簿点検項目を確認後、次ページ

# 使用簿の記入例

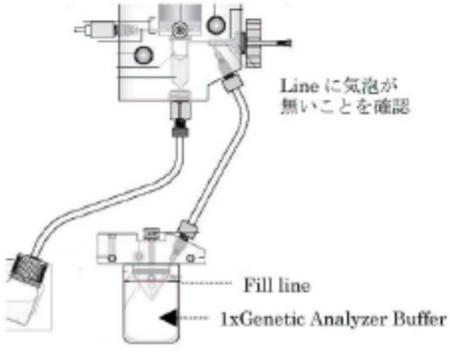
科研を使用する場合は  
科研代表者を記入します

使用日	2007 年 07 月 01 日	教室名	共同実験室
使用時間	10 時 00 分～ 13 時 00 分	科研代表者氏名	
内線	7472	使用者氏名	大腸 菌太郎
E-mail	crl@md.okayama-u.ac.jp		

 <p>16本セット、底に気泡が無いことを確認</p>	SET サンプル	サンプル set 位置	RUN 回数	Run ID
	総数  16 本	1	1	0010
		2		
		3		
		4		
		5		
		6		
		7		
		8		
		9		
		10		
		11		
		12		

 <p>Line に気泡が無いことを確認</p> <p>Fill line</p> <p>1xGenetic Analyzer Buffer</p>	サンプル数を記入し 使用している場所を塗りつぶします Run Viewに表示されたIDを記入します
陽極側	2 蒸留水 4 蒸留水 1 1xGenetic Analyzer Buffer 3 <del>蒸留水</del>
トレイ側	

点検項目	備考
1. 陽極側 Buffer 交換	YES NO
2. 陽極側 Buffer 量確認	
3. Buffer 容器のがたつきなし	
4. トレイ側 Buffer、蒸留水交換	YES NO
5. トレイ側 Buffer、蒸留水量確認	
6. Buffer トレイのがたつきなし	
7. サンプル入れ 16SET で Hi Di が入っているか確認	
8. サンプルトレイのがたつきなし	
9. LINE に気泡がないことを確認	
Total 確認	

問題なければ START してください。(不安な点、異常な点がある場合は、中止してください。)  
 中止した場合、必ずキャピラリーが Buffer に浸かっている状態を確認してください。  
 \*\*\*\*\*による破損は発生しないようになりますのでご注意ください。\*\*\*\*\*

ポリマー残量	mL	E P Current
--------	----	-------------

使用した日時、氏名等を  
記入する  
E-mailがない場合、  
重要な連絡がいきません

サンプル数を記入し  
使用している場所を塗りつぶします  
Run Viewに表示されたIDを記入します

確認した項目にチェックを入れます  
守れていないと故障する項目もありますので  
しっかり確認して下さい

3  をクリック

間違いなければOKを押す



機械がstartします。

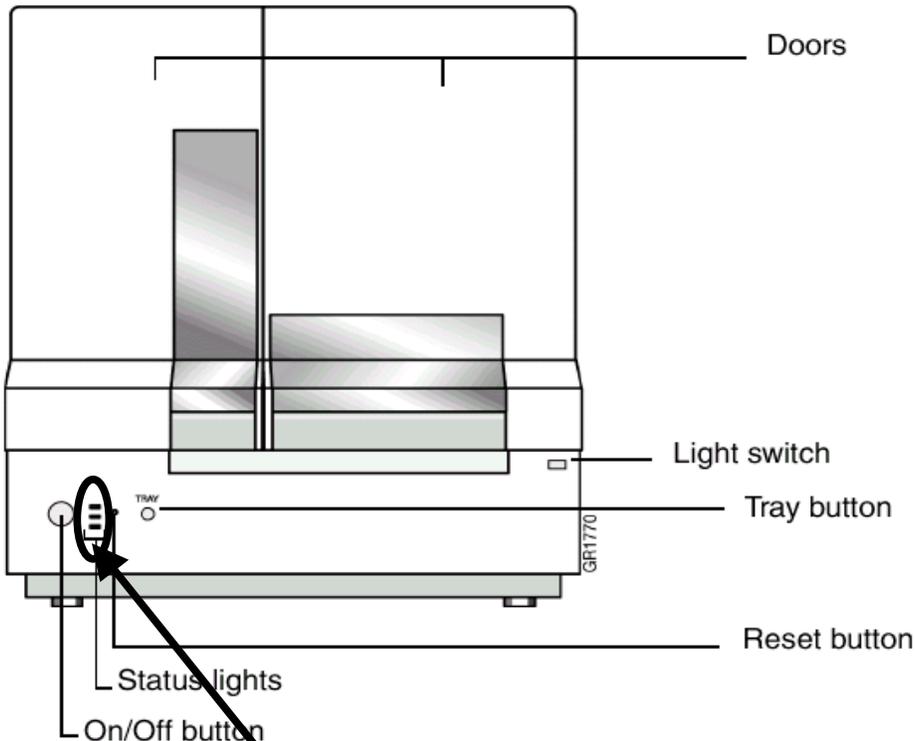
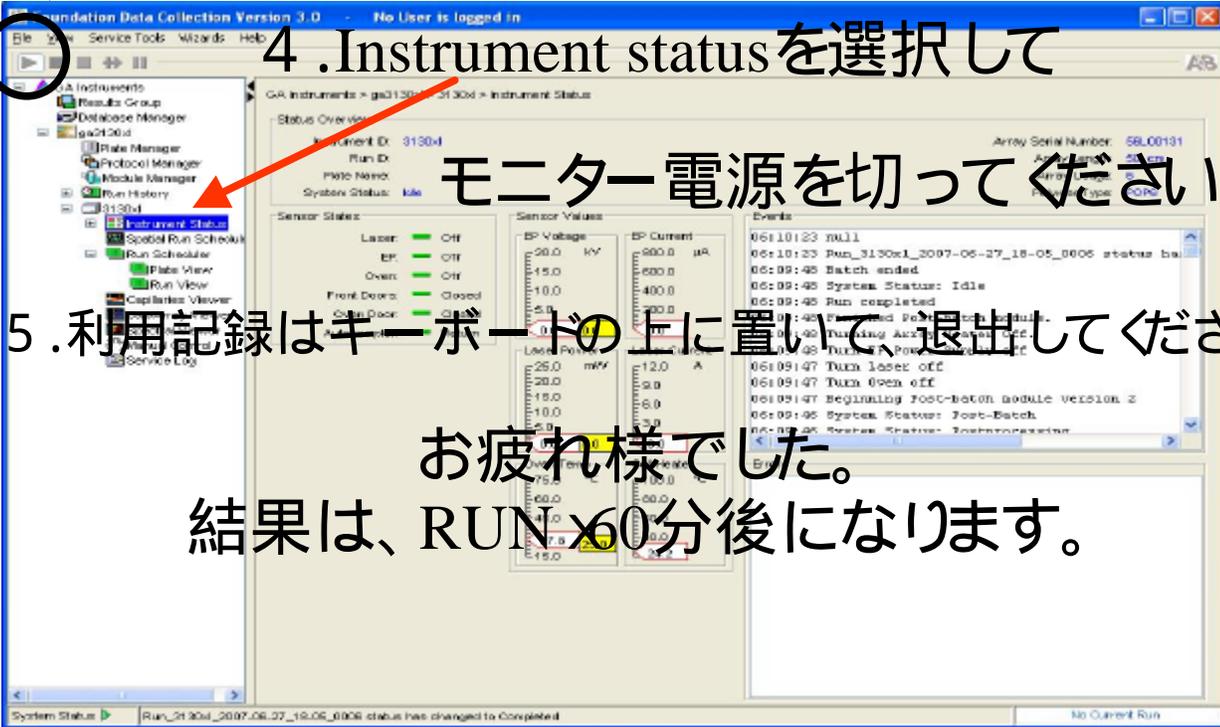
4 .Instrument statusを選択して

モニター電源を切ってください。

5 .利用記録はキーボードの上に置いて、退出してください

お疲れ様でした。

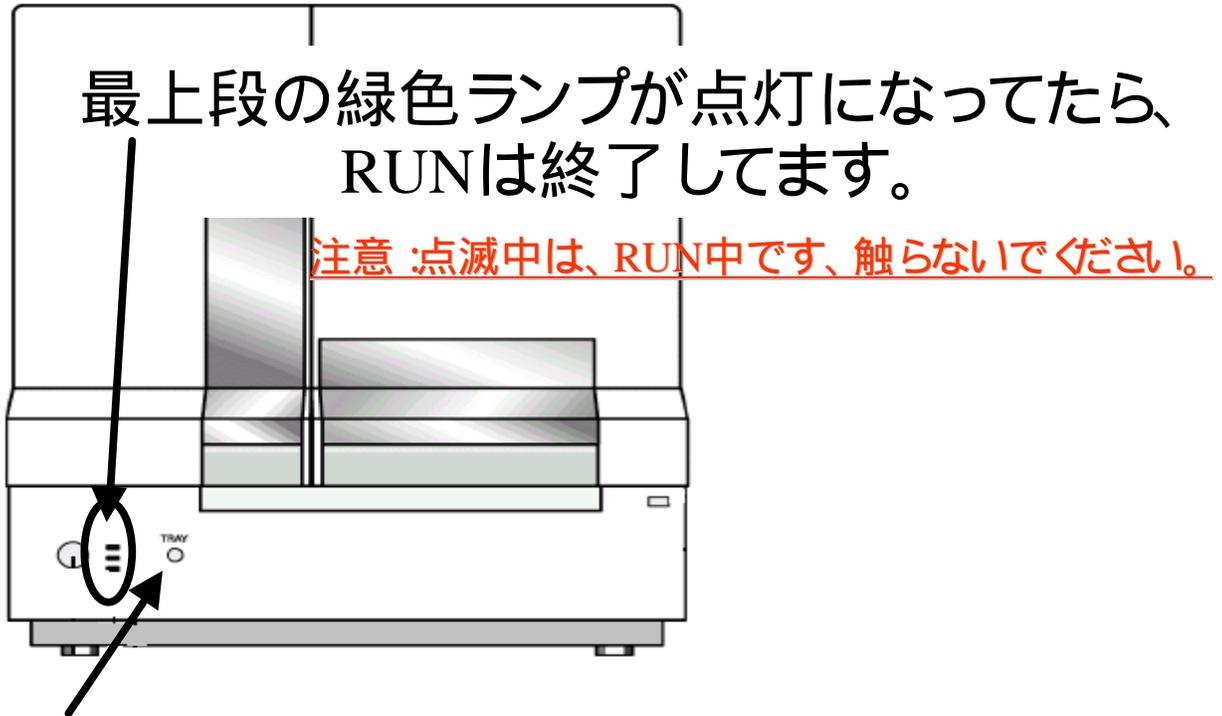
結果は、RUN x60分後になります。



機械作動中は、緑色ランプが点滅になります。

(モニターのカウン트가0:00でも緑ランプ点滅時は稼働中です)

## Run終了後



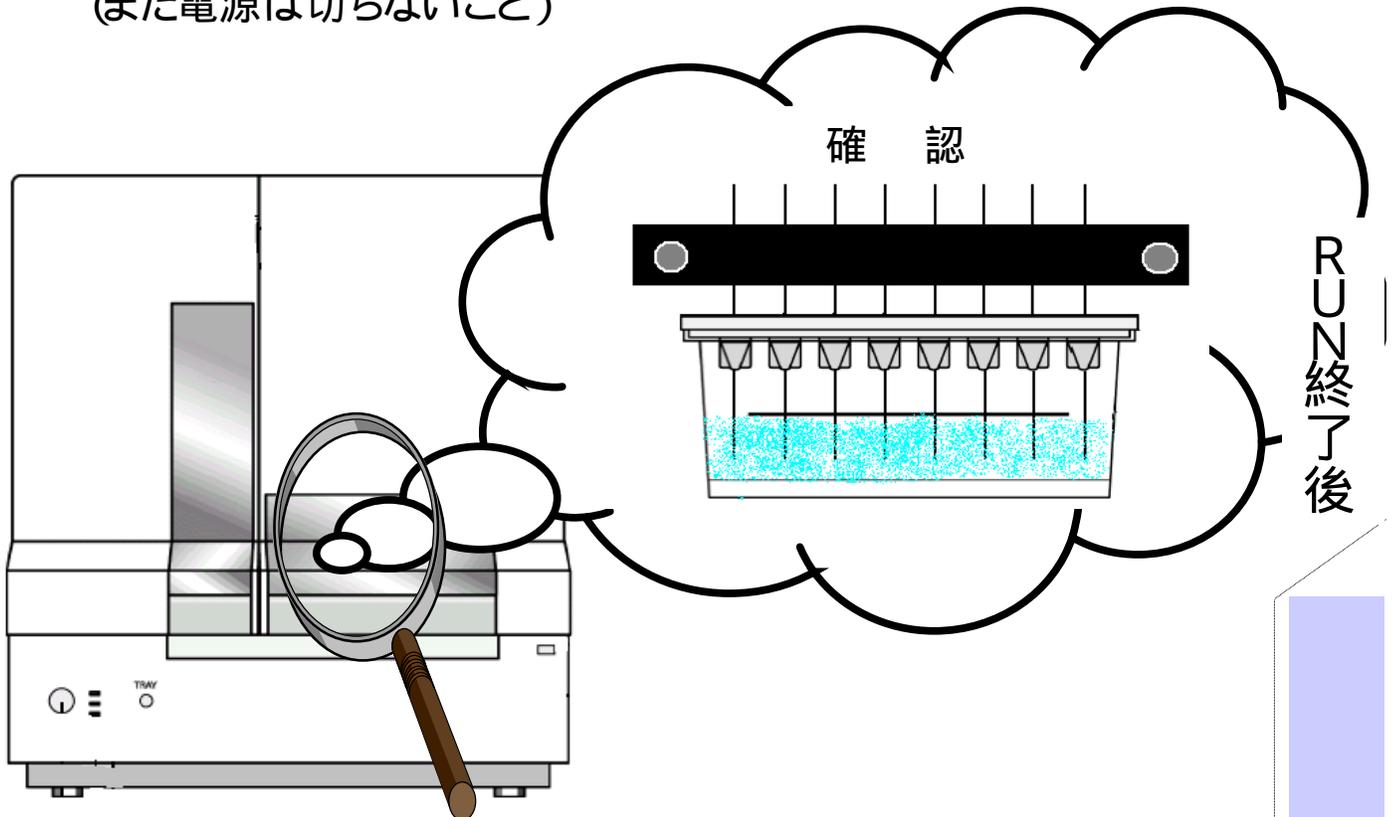
1. Tray ボタンを押す ステージを前に出て来ます、  
(停止するまで扉を開けない)

2. 扉を開けサンプルプレートを外す

**注意 :Bufferは、はずさない事**

3. 扉を閉める

自動でステージが戻り、キャピラリーが Bufferに漬かっていること  
(まだ電源は切らないこと)

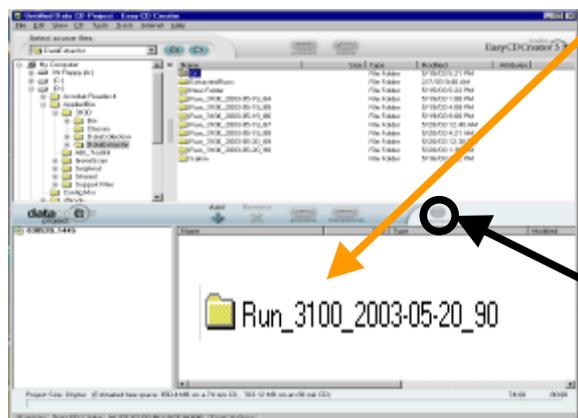


# CD - Rへのコピー手順

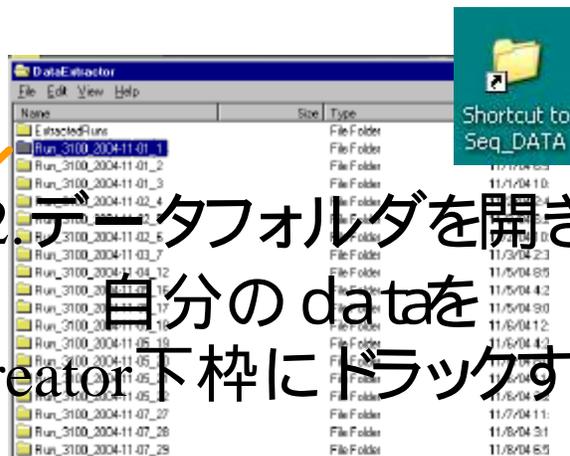
追記の場合は、CDを入れて認識してから  
次の作業を行って下さい。



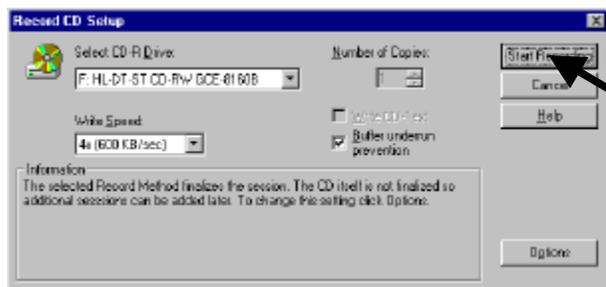
## 1.左のEasyCDCreatorクリック



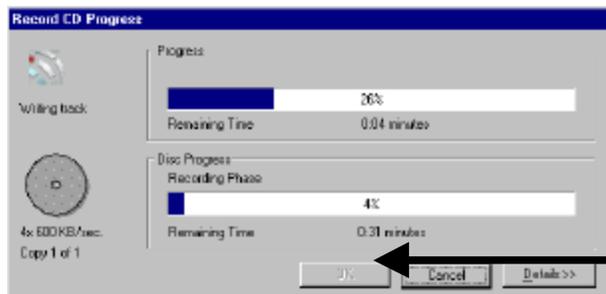
2.データフォルダを開き  
自分の dataを  
Creator下枠にドラックする



## 3.Recordを押す



## 4.Start Recordingを押す



100%で、OKが押せるようになると書込み終了

## 5.OKを押す



## 6.Noを押す (追記の場合出ません)

## 7.Softを終了する

# USBメモリーの使用に関して

**注意** :USBメモリー使用者は、必ず、ウイルスチェックをしたUSBを持込んでください。

- 1.USB接続時は、Shiftキーを押して接続。
- 2.Drive Folderをダブルクリックせずに、  
右クリックでエクスプローラを起動する

使用者のコンピューターで、ウイルス感染があった場合  
早急に、連絡して下さい。

報告時には、以下の情報提供をお願いします。

教室名 \_\_\_\_\_

内線 \_\_\_\_\_

E-mail \_\_\_\_\_

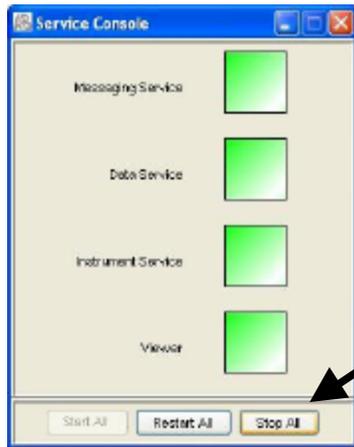
ウイルス名 \_\_\_\_\_

発見日 \_\_\_\_\_年 \_\_\_\_\_月 \_\_\_\_\_日

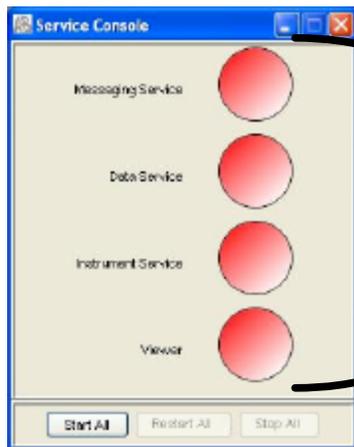
シーケンサーへの接続の 有 無

シーケンサーコンピューターがウイルス感染の確認をした場合、  
SOFT・dataをすぐに初期状態に戻しますのでよろしくをお願いします。  
感染後の、dataの移動は、禁止します。

# Shutdown手順

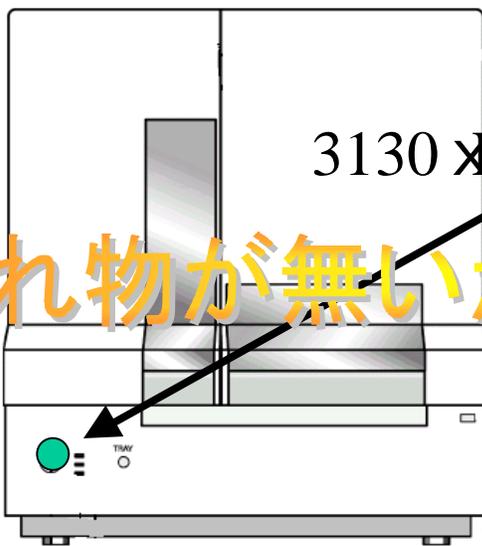


1. Stop Allを押す



全てが赤丸になるまで、我慢する

赤丸確認後、Windowsを終了させる



3130 XL本体の電源をOFFにする

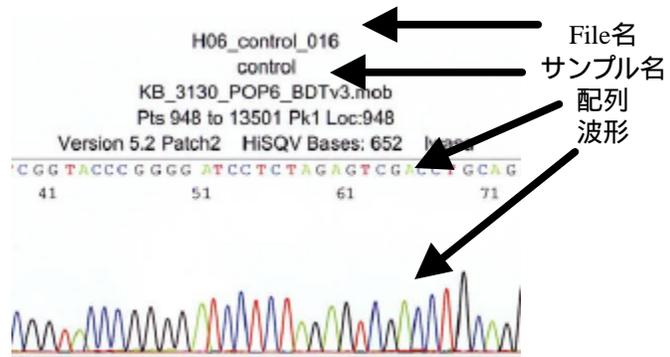
忘れ物が無いか確認してください

お疲れ様でした。

シヤミッダウン

# シーケンスデータの説明

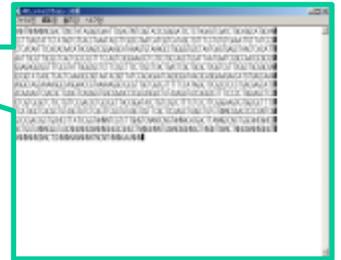
## プリントアウトデータ



## Data Fileは 2種類出来ます

注意：  
Macの場合、文字化けしますので、容量の大きい方が波形dataです。  
また、dataを追記した場合、どのfileかわからない場合は、  
作成日時を確認して検討をつけてください。

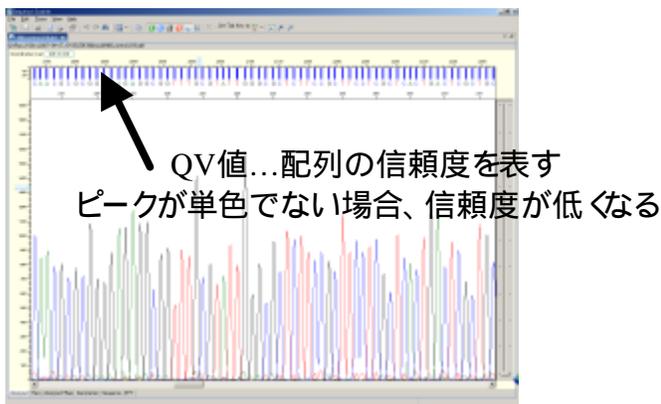
\*.seqが、配列のテキストデータ  
(メモ帳で開けます)



\*.ab1が、波形データ  
(WinのみSequence Scannerで開けます)



## 波形データの中身は、、、



Analyzed...移動度補正を行ったデータ



Raw...生データ

